

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和 4年 6月 4日

作成者： 三宅真理子

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
こくさいひろば芦屋	
事業名	日時(期間)、場所
ナタリーさんと麻衣さんのスプーンとナイフの使い方レッスン(地域の方々へ向けて)	令和3年7月31日 カフェ・ブーケ
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
本会は多文化共創を活かしたまちづくりに取り組んでおり、その一環として、大学生の留学先としても人気の高いフィリピンについて、食事やスイーツの視点からレッスンを開催した。フィリピン出身のナタリーさん(高校生)と麻衣さん(中学生)が講師となり、スペイン出身のエリダさん(高校生)が司会進行を務め、地域の小学生から大人の方々まで34名の参加があった。本会はともに学び合う姿勢で活動に取り組んでおり、地域住民の方々も、また講演者も、ともに学び合うことになるため、受益者と参加者を同数としています。スプーンやフォークや手の動かし方の説明の他に、お菓子の名前から展開したキリスト教の話題などで3人の話は白熱し、また参加者からも次々と質問があがるなど、グローバルな学びの場となった。	(34) 人
	参加者数
	(34) 人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
地域のなかで日本人と外国人とが共に学び合う多文化共創の場所をつくり、それを広く地域へ開いていくことで、地域貢献を行うことができたと思われる。兵庫県の「人間サイズのまちづくり賞」における知事賞の受賞や、国土交通省による第1回まちづくりアワード<功労部門>(国土交通大臣表彰)の受賞はそれらの活動が評価されたものと考えられる。	
今後の展望(どのように継続、発展するか)	
このレッスンはシリーズとして昨年から続けているものであり、中高生たちがレッスン中に親戚(昨年はスペイン、本年度はフィリピン)と、zoomや電話で繋ぎ、意見交換を行うなどして地域と世界を繋いだ。中高生たちは自己表現の場として、地域住民は地元で多文化を知る機会となり、このような多文化共創によるまちづくりを今後も続けていきたい。次年度は地域の方々へ向けて、多文化共創の場(多文化を知る機会)となるようなカフェをシリーズで開催する計画をしている。	